



【教育目標】

自立に向かう生徒

ゆめ おり ばし

夢織橋

味方中学校だより No. 2 3

令和4年2月22日発行

<http://www.ajikata-jhs.city-niigata.ed.jp/>

令和3年度 味方中学校学校評価 その2

令和3年度味方中学校の「学校評価」がまとまりましたのでお知らせします。今年度、味方中学校では、教育目標である「自立に向かう生徒」を柱に、「見方・考え方を働かせて深い学びが生まれる授業づくり」、「自律性と社会性を育成する生徒指導の充実」、「特別支援教育の推進」の3つの重点目標を掲げ、教育活動に取り組んできました。

令和3年12月に実施した学校生活アンケートを基に分析した評価結果や学校評議員の皆様からいただいたご意見をまとめました。

1 令和3年度味方中学校の学校評価

【見方・考え方を働かせて深い学びが生まれる授業づくり】

評価項目と判断基準	評価の根拠	評価
(1) 学習においてのアウトプットと振り返りを実践したと自己評価する生徒・教職員の割合を80%以上にします。 A：80%以上、B：50%以上、C：50%未満	(1) 肯定的に回答した生徒の割合は90.4%、肯定的に回答した職員の割合は90.9%で、A評価でした。 一人1授業公開し、相互参観後協議会を行い、iPadの活用・アウトプット・振り返りについて研修を行いました。	A
(2) 単元テストのフォローアップの実施状況や評価基準・指導内容を検討したと自己評価する教職員の割合を80%以上にします。 A：80%以上、B：50%以上、C：50%未満	(2) 肯定的に回答した職員の割合は90.9%でA評価でした。 単元テストで正答率の低い問題（内容）について、フォローアップする時間を確実に組み込んだ職員の割合が大きくなりました。	

【自律性と社会性を育成する生徒指導の充実】

評価項目と判断基準	評価の根拠	評価
(1) 特別活動においてのPDCAサイクルを実践したと自己評価する教職員の割合を80%以上にします。 A：80%以上、B：50%以上、C：50%未満	(1) 特別活動においてのPDCAサイクル実践の状況の割合は90.9%でした。 職員の授業公開や研修を通して、職員が、協働学習やPDCAサイクルの大切さを共有することができました。	A
(2) 総合的な学習や他の学習場面において、協働学習が身に付いたと自己評価する生徒・教職員の割合を80%以上にします。 A：80%以上、B：50%以上、C：50%未満	(2) 総合的な学習や他の学習場面においての協働学習が身に付いたと自己評価した生徒・教職員の割合は92.5%でした。 総合的な学習の時間を中心に、iPadやファシリテーションを用いての協働学習が定着し、アウトプットしたり協働して物事を成し遂げたりする力がつきました。	

【特別支援教育の推進】

評価項目と判断基準	評価の根拠	評価
<p>(1) 「個別の指導計画」「個別の支援計画」を作成し、年3回の評価・見直しを行います。</p> <p>(2) 「授業におけるUDLの共通実践事項」を実践していると自己評価する教職員の割合を80%以上にします。 <u>A：80%以上、B：60%以上、C：60%未満</u></p>	<p>(1) 校内特別教育支援委員会を年3回実施し、中間評価・年度末評価等の見直しを行いました。 「個別の指導計画」、「個別の支援計画」を計画的に作成、活用し、教職員で共通理解を図りながら、生徒を支援することができた。</p> <p>(2) 「授業におけるUDLの共通実践事項」に取り組んだと自己評価した教職員の割合は100%でした。 授業におけるUDLの内容の理解を更に深め、誰にとっても安心して参加できる授業を目指します。</p>	<p>A</p>

【味方中学校 学校評議員会】

2月4日（金）に学校評議員会を実施し、ご意見をいただく予定でしたが、まん延防止等重点措置により中止となりました。今回は、紙面回答でご意見をいただきました。以下は、学校評議員の皆様方からいただいたご意見です。 （抜粋）<○…成果、△…課題、□…検討・提案>

- 教職員研修の授業公開・相互参観は素晴らしい取組である。
- 特別活動におけるPDCAサイクルの実践や総合的な学習の時間におけるファシリテーションの活用について異論はない。
- 特別支援教育の取組について、大いに評価する。
- △ 「将来の夢や目標をもち、粘り強くやり抜こうとする生徒の育成」は、社会全体の課題でもある。今後も、教職員・保護者の共通課題として、継続して取り組んでほしい。
- △ 9年間を同じメンバーで過ごすことの弊害は何か？ 「自分を見つめなくなる。カルチャーショックの欠如。」等が考えられる。高1ギャップを経験し、乗り越えれば、「将来の進路を具体的に考える。自立が芽生える。」ことに繋がると思う。
- △ 発達障がいを抱える子どもたちが大人に成長したとき、現実の社会でどう受け入れていけるのか？ これからの大きな課題である。
- 2年生、3年生に「SWOT分析」を導入するのはどうか？
- 総合的な学習の時間に、直近の先輩（高校1年生や大学1年生、専門学校生や就職者等）の実際の話聞く機会を設ける。

3年生 感謝を込めて大清掃

2月18日（金）、3年間、学びの場として使用してきた校舎に感謝の意を込めて、3年生が大清掃を実施しました。前向きに、一生懸命に清掃する3年生の姿は立派でした。改めて3年間の成長を実感することができる取組でした。

